【熊谷市】
校務DX計画

１　現状

⑴　統合型校務支援システム

令和元年度から統合型校務支援システムを導入し、児童生徒の名簿情報や出欠、成績、保健情報、生活の記録等のデータを一元管理・蓄積している。

⑵　児童生徒、教職員グループウェア

全児童生徒と職員がMicrosoft Office 365のアカウントを所持しており、クラウド環境でのデータ共有、Word、Excel、PowerPoint等での共同編集が可能である。オンライン会議の開催もできるため、研修会のオンライン開催も増えている。

⑶　ＦＡＸおよび押印の見直し

ＦＡＸについては、教育委員会からの連絡をメール配信に切り替え、電子メールが使用できない業者等との連絡のみＦＡＸを使用している。押印については、文書の電子化による廃止に向けて、見直しを進めている。出勤簿の廃止、文書決裁時の押印廃止に向け、市全体で取り組んでいる。

⑷　ペーパーレス化の推進

教育委員会から紙ベースでの文書送付をやめ、電子メールによる文書の送信を行い、ペーパーレス化を進めている。学校も、会議資料を共有フォルダやクラウド上に保存し、教員がいつでも自由に閲覧できるシステムを構築し、ペーパーレス化を進めている。今後も、さらなるペーパーレス化を推進するとともに、電子起案、電子決裁システムの導入について検討していく。

⑸　保護者連絡ツールの導入

児童生徒の欠席連絡や保護者へのおたよりの配信等を行うアプリケーションを導入している。このアプリケーションにより、教職員の負担軽減及びさらなるペーパーレス化の推進につなげている。

２　今後に向けて

⑴　クラウドサービスの活用

Microsoft Office 365の活用により、クラウド上での情報交換、情報共有、共同編集等をさらに進めていく。また、ＡＩドリルや自動採点システム、保護者との面談日程の調整等、様々なクラウドサービスを調査し、導入を検討する。

⑵　校務支援システムの更新

教職員の使用状況を把握し、現在の校務支援システムに対する課題や次期システムに向けた要望等をもとに更新を進める。校務支援システムの更新に向けて、システムのクラウド化についての検討も進める。

⑶　校務における生成ＡＩの活用

校務における生成ＡＩの効果的な活用を研究する。著作権や情報の正確さ等、よく理解した上で配布文書の作成、授業の教材研究等に活用できるようにする。